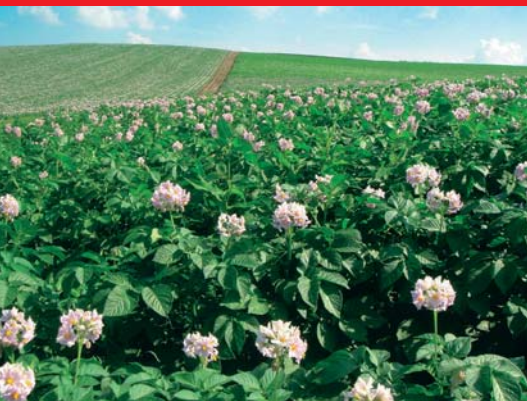




ワタミグループ CSR報告書
ふれあい報告書® 2008

CSRテーマ ありがとうの総和

地球上で一番たくさんのありがとうを集めるグループになりたい。 **WATAMI**®



ふれあい報告書2008「ワタミグループCSR報告書」発行にあたり

はじめに

「ふれあい報告書」というタイトルは、私たちの活動の根幹である経営理念からネーミングされました。私たちは、人として、社会の一員としての責任を果たし、事業活動を営む一方で、できる限りの社会貢献（還元）に取り組んでいくことが大切だと考え、「できることからコツコツと一歩ずつ」を基本に創業時より努力してまいりました。

2001年より、この考え方に基づく行動を「ふれあい活動」と名づけ、グループのテーマに「環境貢献、社会貢献、人間貢献」を掲げ、今まで以上に明確に決意（意思）を表明し、毎年、環境および社会貢献に関する報告書として「ふれあい報告書」を発行してきました。

2006年からは、「環境」「社会貢献（地域・社会）」のみならず、「お客さま」「株主様」「お取引業者様」「従業員」などステークホルダー（利害関係者）の皆様との関わりについても記載し、CSR報告書として発行しています。

本報告書を通じて、皆様の温かいご理解と貴重なご意見を頂戴することができましたら幸いです。

編集方針

本報告書は、ワタミグループの活動や取り組みを分かりやすくご紹介させていただくことを目的に、ステークホルダーの皆様ごとに掲載しています。

本報告書では、

- 1、各ステークホルダーにどのようにご意見・ご要望を伺い、企業活動に活かしているか
 - 2、活動に対する姿勢、昨年度の課題に対する実績と評価、今後の目標
- を積極的に記載しました。

また、ステークホルダー別の扉ページでは、活動に対する総括として、主要なパフォーマンスデータを掲載しています。

さらに、本報告書では、アルバイトの教育や社員登用に対する取り組み、外食事業以外の環境面に関わる取り組みなど、皆様の関心が高いと思われる情報を追加し、網羅的な情報の開示に努めました。

また、制度や取り組みに対する具体的な事例や詳細データの一部は、本紙の最終部分にデータ集として掲載しています。

「ふれあい報告書2008」WEBサイトのご案内



本冊子に掲載されている内容は、「ワタミふれあいホームページ」でご覧になれます。

ワタミふれあいホームページでは、2008年4月より、視力の弱い方や目の疲れやすい方でもホームページを快適に閲覧していただくための支援する機能を導入しました。簡単なマウス操作で文字を拡大したり、自動的に音声で読み上げることで、ホームページの閲覧を支援します。また、背景色・文字の色を変えて、読みやすい色で閲覧できます。

ワタミふれあいホームページ <http://www.watami.co.jp>

発行日 2008年9月（次回発行：2009年9月、前回発行：2007年9月）

お問い合わせ先

ワタミ株式会社（社長室）
東京都大田区羽田一丁目1番3号（〒144-0043）
TEL (03) 5737-2784 FAX (03) 5737-2793
ワタミふれあいホームページ <http://www.watami.co.jp>

対象範囲

ワタミ株式会社および国内連結子会社11社を基本に、一部の報告では海外を含むワタミグループ全体、あるいはグループ会社の個々の活動についても紹介しています。

本報告書では、

- 1、「ワタミグループの概要」では海外を含むワタミグループ全体について紹介しています。
- 2、「「ありがとう」の輪を世界に広げるために」では和民（中国）有限公司、和民餐飲（深圳）有限公司、台湾和民餐飲股份有限公司の海外3社の活動について紹介しています。
- 3、「環境とともに」ではワタミ（株）、およびワタミフードサービス（株）、ワタミダイレクトフランチャイズシステムズ（株）、（株）ティージーアイ・フライデーズ・ジャパンの国内外食企業3社、ワタミの介護（株）、ワタミエコフォーカス（株）、ワタミ手づくりマーチャングライディング（株）の7社を対象としています。

対象期間

2007年度（2007年4月1日～2008年3月31日）の活動を中心に、一部最新（2008年度）の情報をご紹介しています。

※ワタミの介護（株）については、2月決算のため、2007年度（2007年3月1日～2008年2月29日）の情報としています。

※和民（中国）有限公司、和民餐飲（深圳）有限公司、台湾和民餐飲股份有限公司の3社については、12月決算のため、2007年度（2007年1月1日～12月31日）の情報としています。

社名表記について

本報告書ではグループ会社の社名を略称で記載しています。（2008年6月末現在の社名を使用しています。）

- 1、基本となる国内連結子会社11社を「ワタミグループ」または「ワタミ」と表記していますが、「環境とともに」では、ワタミ（株）およびワタミフードサービス（株）、ワタミダイレクトフランチャイズシステムズ（株）、（株）ティージーアイ・フライデーズ・ジャパンの国内外食企業3社、ワタミの介護（株）、ワタミエコフォーカス（株）、ワタミ手づくりマーチャングライディング（株）の7社を「ワタミグループ」、または「ワタミ」と表記しています。対象が異なる場合は、該当する会社を記載しています。
- 2、「ワタミフードサービス（株）」を「WFS」、「ワタミダイレクトフランチャイズシステムズ（株）」を「WDFS」、「（株）ティージーアイ・フライデーズ・ジャパン」を「T.G.I.F.J.」と表記しています。
- 3、（株）ワタミファーム、（有）ワタミファーム、（有）当麻グリーンライフに関する記載を「ワタミファーム」と表記しています。
- 4、ワタミの介護（株）を「ワタミの介護」、ワタミエコフォーカス（株）を「ワタミエコフォーカス」、ワタミ手づくりマーチャングライディング（株）を「WTMD」と表記しています。
- 5、和民（中国）有限公司、和民餐飲（深圳）有限公司を「和民中国」、台湾和民餐飲股份有限公司を「台湾和民」と表記しています。

〈将来の予測・目標について〉

本報告書には、ワタミグループの過去と現在の事実だけでなく、将来の予測・目標なども記載しました。しかしながら、これらの予測・目標は、記述した時点で入手可能な情報ないし判断であり、リスクや不確定な要因を含んでいます。

したがって、将来に生じる様々な要因により活動結果が、本報告書に記載した予測・目標と異なる可能性があります。読者の皆様には、以上のことをご理解いただけますようお願いいたします。

〈参考にしたガイドライン〉

- グローバル・リポーティング・イニシアティブ（GRI）
- 「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン第3版（G3）」
- 環境省「環境報告書ガイドライン2007年度版」

目次

「ふれあい報告書2008」発行にあたり	P 2
ワタミグループの概要	P 4
トップメッセージ	P 6
ワタミグループに共通する経営の考え方	P 7
ワタミのCSRの考え方	P 8
ワタミのCSRの基盤	
コーポレートガバナンス	P 10
コンプライアンス	P 12
リスクマネジメント・情報セキュリティ	P 13
特集 非正規雇用の教育制度	P 14
お客さまとともに	P 16
安全・安心への取り組み	P 18
外食事業での取り組み	P 20
特集 「ありがとう」の輪を世界に広げるために	P 22
介護事業での取り組み	P 24
MD事業での取り組み	P 26
農業での取り組み	P 27
環境事業・PMでの取り組み	P 28
株主様とともに	P 29
株主様満足度向上に向けた取り組み	P 30
開かれた総会を目指して	P 32
お取引業者様とともに	P 33
お取引業者様との取り組み	P 34
従業員とともに	P 37
理念共有への取り組み	P 38
人材育成への取り組み	P 40
職場環境改善への取り組み	P 41
地域・社会とともに	P 43
全社員ボランティアへの取り組み	P 44
特集 スクール・エイド・ジャパン	P 48
環境とともに	P 49
環境マネジメント	P 50
グループの主な環境影響	P 52
外食店舗での取り組み	P 53
ワタミの介護のホームでの取り組み	P 54
ワタミ手づくり厨房での取り組み	P 55
環境コミュニケーション	P 56
環境会計	P 58
特集 ワタミの森づくり活動	P 59
CSR年表	P 60
CSR指標	P 61
GRI対照表	P 62
データ集	P 64
2007年度アンケート結果 / 編集後記	P 67

ワタミグループの概要

会社概要 (2008年3月末現在)

社名：ワタミ株式会社
 本社所在地：東京都大田区羽田一丁目1番3号 (〒144-0043)
 創業：昭和59年4月
 設立：昭和61年5月
 売上高：104,231百万円 (連結)
 資本金：4,400百万円
 従業員数：グループ計3,126名

ワタミグループは、外食・介護・農業・環境の分野で事業を展開しています。ワタミの最大の財産である「人」が差別化要因になる事業で積極的に展開しています。

事業別売上高/経常利益		(2008年3月期)	
	事業別売上高(百万円)	事業別経常利益(百万円)	
外食 (国内)	86,911	3,935	
外食 (海外)	4,570	197	
介護	10,534	1,114	
農業	3,056	▲117	
環境	4,066	261	
その他	84	3	

※連結調整前の数値 ※介護事業はのれん償却調整後の数値

外食事業

飲食店の経営およびフランチャイズ加盟店の店舗管理

2007年度は、愛媛・佐賀へ新規出店し、2008年3月時点で1都1道2府35県に展開しています。また「坐・和民」「わたみん家」などへの業態転換を計14店舗行いました。海外では、香港、中国本土(深圳、上海)のほか台湾、 Guamに展開しています。

国内の外食業態紹介

居食屋「和民」
 「時間・空間を楽しむ」新しいタイプの居酒屋として開発。「豊かで楽しいもうひとつの家庭の食卓」を基本コンセプトに展開しています。

語らい処「坐・和民」
 居食屋市場の変化に合わせ、内装により個室感を持たせた「静かに語り合う空間」を提供しています。

居食屋「和み亭」
 ランチ&ディナー営業を行う居食屋「和み亭」。平日は居酒屋ニーズに対応、週末にファミリーがご来店する居食屋として「和民」を補完します。

japanese dining「ゴハン」
 「古きよき日本の食卓」が基本コンセプト。不思議な雑踏感があり、懐かしさと新鮮さを感じるモダンな居食屋です。

ごはん酒房「然の家」
 自然をキーコンセプトに据え、より多様なご利用動機にお応えできる、新しい和の居食屋空間です。

炭火焼だいにんく「わたみん家」
 「炭火焼串料理」を中心とした専門商品を提供する業態として展開しています。

Restaurant & American Bar「T.G.I. Friday's®」
 「古き良きアメリカ」をコンセプトに、ドリンク類を豊富に揃え、アメリカの家庭食をフレンドリーなサービスで提供するレストラン。※日本国内および、Guamの店舗を運営しています。

海外の外食業態紹介

Japanese Casual Restaurant「和民」
 日本の「和民」の味を本格的に追求。手頃な価格で、お酒で清潔な店内で礼儀正しく親切的なサービスを気軽に楽しめるJapanese Casual Restaurantとして展開しています。(フランチャイズ店舗として上海に展開。)

日本料理「和亭」
 「和亭」は、「和民」の商品をベースに、現地の人々の日本食ニーズを取り入れ、それらを低価格で提供する業態です。日本食の日常利用を提案し、幅広い層のお客様さまに対応しています。香港で展開中です。

展開ホームご紹介

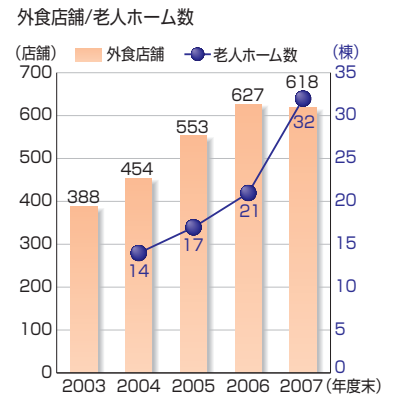
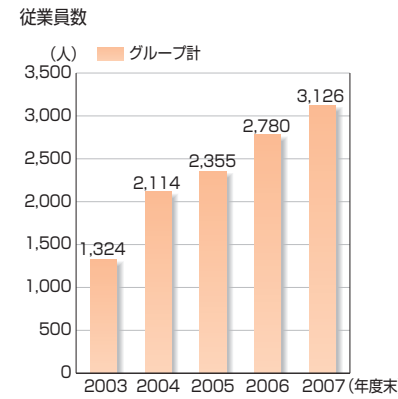
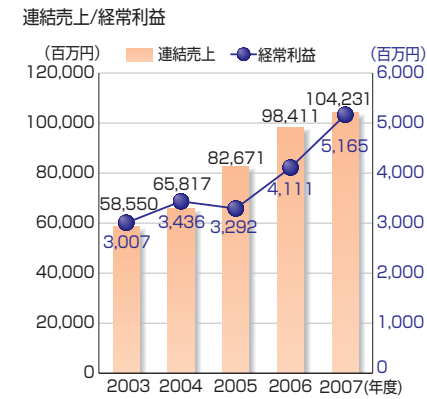
レストヴィラ 介護付有料老人ホームとして展開するワタミの中心ブランド「レストヴィラ」は、住み慣れた自宅・地域では自立した自分らしい暮らしを営むことが困難になった方のために、介護保険・在宅サービスの「特定施設入居者生活介護」を利用して必要なサポート、サービスを提供しています。ワタミ農園やワタミカフェ、美味しい食事や環境への取り組みなど、ワタミグループのノウハウが随所に活かされています。

REVITA 住宅型有料老人ホームとして展開する「レヴィータ」は、食事や生活支援の付いた高齢者マンションです。プライバシーを確保しつつ、万が一介護の必要な方には、「デイサービスセンター」や「訪問介護ステーション」が対応するなど、安心して自宅に住み続けることができる体制を備えています。

TOPICS 株式会社タクシヨクの株式取得について

2008年7月31日付で株式会社タクシヨクの全株式を取得し、グループ会社としました。株式会社タクシヨクは、九州、関東地域において夕食弁当(夕食食材)の製造、および業務委託方式による宅配事業を行っています。

今後、原材料の調達や製造の共有、物流の効率化や、メニュー開発力の強化、さらに関東圏での事業拡大などを行います。また、顧客には高齢者の方々も多く、介護事業で培った介護食のノウハウを取り入れ相乗効果を発揮していきます。



■外食店舗 都道府県別出店状況 (2008年3月末現在)

- 既存商圏
- 2007年度新規出店地域
- グループ合計618店舗
- 国内合計 597店舗
 - 北海道 13店舗
 - 東北 10店舗
 - 関東 407店舗
 - 北陸 3店舗
 - 中部 35店舗
 - 近畿 84店舗
 - 中国 15店舗
 - 四国 4店舗
 - 九州 26店舗
- 海外合計 21店舗
- ※県別の数字は店舗数です。

■老人ホーム 都道府県別展開状況 (2008年2月末現在)

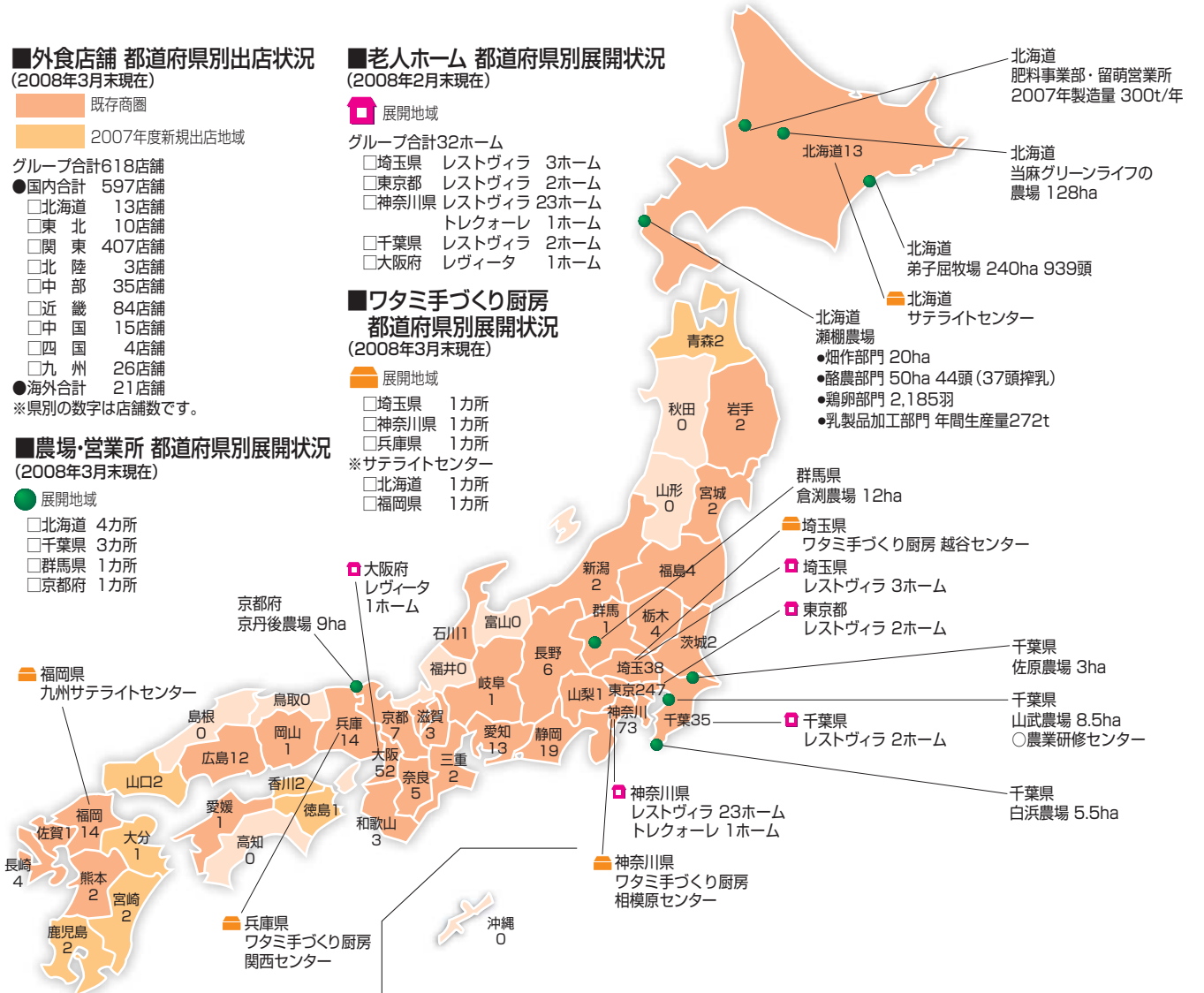
- 展開地域
- グループ合計32ホーム
- 埼玉県 レストヴィラ 3ホーム
- 東京都 レストヴィラ 2ホーム
- 神奈川県 レストヴィラ 23ホーム
- 千葉県 レストヴィラ 1ホーム
- 大阪府 レヴィータ 2ホーム

■ワタミ手づくり厨房 都道府県別展開状況 (2008年3月末現在)

- 展開地域
- 埼玉県 1カ所
- 神奈川県 1カ所
- 兵庫県 1カ所
- ※サテライトセンター
- 北海道 1カ所
- 福岡県 1カ所

■農場・営業所 都道府県別展開状況 (2008年3月末現在)

- 展開地域
- 北海道 4カ所
- 千葉県 3カ所
- 群馬県 1カ所
- 京都府 1カ所



農業

農産物、有機肥料、農業資材の生産・販売およびグループ企業への農産物の納入、酪農・養鶏・畜産事業

2006年度より北海道の弟子屈(てしかが)で肉牛の生産を開始し、畜産事業に参入しました。

2008年3月末時点で全国に8カ所、476haの農場(牧場)を運営しています。

また酪農や鶏卵事業・肥料事業などにも取り組んでいます。

環境事業・PM

外食店舗や介護・商業施設の用地開発、建設・工事、保守・ビル管理業務、環境改善事業

外食店舗や介護・商業施設の物件開発から建設、メンテナンス、資産管理に至るまでのサービスを展開しています。

また、施設の「生む～創る～守る」までを一貫して行う体制を活かし、「低コストで環境負荷を軽減するための総合施設マネジメント」を提案しています。

※PM…総合施設マネジメントサービス

MD事業

給食事業 弁当事業(宅配弁当) 通信販売

「ワタミ手づくり厨房(集中仕込みセンター)」を運営し、ワタミグループの外食店舗や老人ホームの商品提供(商品開発・製造)・物流を担っています。また、通信販売や、保育園・学校・病院などへの商品提供も展開しています。

※MD…商品に関わるマーチャンダイジングのすべて

その他

医療(医療事務受託および物品販売業務)

100年先まで続く会社を目指して

トップメッセージ



私は、「100年続く企業創りをしていこう。100年先に向けて準備をしていこう。」と、その思いを伝え続けています。

外食事業をはじめ、介護・農業・環境とあらゆる場面で「ありがとう」を集める企業となった今、ワタミグループ全社員の一人ひとりが、何をもって「ありがとう」を集めるのかを考え、構想することを共有したいと思います。

「100年企業」を目指すとき、10年間の利益を追求しようという企業とは、まったく異なります。

長く続けるためには、損得でなく、善悪を判断基準にしなければなりません。

2007年は、すべてのステークホルダーの皆様にご提供いただける「ありがとうの総和」を、より確かなものにしていくためにグループ事業の再編を行いました。

ワタミが、創業当時よりこだわり続けていた「手づくり」への強い思いから生まれた「ワタミ手づくり厨房」を中心に「仕入」「加工」「物流」部門を統合、より高いコストパフォーマンスを目指し、ワタミ手づくりマーチャндаイジング(株)を設立いたしました。

「環境」「メンテナンス」を中心に展開していたグループ会社とワタミ(株)が実施していた「店舗開発」「建設」部門を統合、環境に配慮しながらより収益性の高い会社を目指す、ワタミエコフォーカス(株)を設立いたしました。

どちらも、ワタミ最大の財産である「人」あつての事業です。

企業とは「人」そのものであり、一人ひとりの行動の反映であると考えます。100年先から

- 日本で、世界で、こんなお店があつてよかった、ありがとう
- 安全で安心な手づくりの料理を、ありがとう
- あの会社があつたから日本は、高齢者にとって幸せな国となった、ありがとう
- あの会社があつたから、日本の農業は守られた、ありがとう
- あの会社こそ、外食における廃棄物リサイクルの先駆けだった、ありがとう
- この会社の株主でいてよかった、ありがとう
- この会社と取引ができてよかった、ありがとう
- こんな会社で働けてよかった、ありがとう

社員一人ひとりが集めた「ありがとうの総和」こそが、CSRであり、会社の価値を決めると信じます。

これからも全社・全社員で一歩ずつ、「体の重い亀」のように歩んで参ります。皆様の変わらぬご支援を、心よりお願いいたします。

ワタミ株式会社
代表取締役社長・CEO

渡邊美樹

ワタミグループに共通する経営の考え方

私たちは、企業は人そのものであり、一人ひとりの行動の反映であると考えます。

ワタミの目指す姿は、様々な社会貢献型ビジネスをグループで展開、ステークホルダーの皆様から、感謝と信頼を集め続ける「ビジョナリーカンパニー“WATAMI”」です。

ワタミがその事業に参入してくれてよかった・・・と言われるように、「人」と「人」がふれあう、あらゆる場面で、「ありがとう」を集めます。

ワタミグループ スローガン

「地球上で一番たくさんの「ありがとう」を集めるグループになろう」

ワタミグループ ミッション

「地球人類の人間性向上のためのよりよい環境をつくり、よりよいきっかけを提供すること」

ワタミグループ 経営の基本目的

「会社の繁栄、社員の幸福、関連会社・取引業者の繁栄、新しき文化の創造、人類社会の発展、人類の幸福への貢献」

グループ社員の仕事の仕方に対する合言葉

「from-O」
「明るくのびのびと仕事をしよう」

【グループ企業が目指すことを各社の経営目的に表現】

グループ各社の経営目的は、グループ共通の経営の基本目的に加え、各事業領域で目指すことを表現しています。

- ▼外食 一人でも多くのお客さまに、あらゆる出会いとふれあいの場と安らぎの空間を提供すること
- ▼介護 一人でも多くの高齢者の方に心からのお世話をさせていただくことにより、お一人おひとりの幸せに関わらせていただくこと
- ▼農業 食の基本である安全・安心を追求し、次世代に良い環境を残し、人々の幸せに貢献すること
- ▼環境 PM さまざまな施設の「生む～創る～守る」を一貫して行い、施設の価値を最大限にするとともに地球環境へ貢献すること
- ▼MD バリエーション豊かで、常に変化し続けるメニューを支え、安全で、衛生的で、フレッシュな製品を、均質に、圧倒的な安価で提供し続けること

ワタミグループ憲章

ワタミグループは、

- 一、地球上で一番たくさんのありがとうを集めるために戦う
- 一、人間性の向上のため、夢を持ち、夢を追い、夢を叶える
- 一、人として美しい生き方を追求する
- 一、「人」が差別化となる事業にのみ参入する
- 一、お客さまの満足をすべてに優先させる
- 一、公明正大な人事を行なう、完全実力主義こそ、人事の要諦とする
- 一、額に汗した利益を、利益と認める
- 一、ありがとうの分だけ売上を上げ、知恵の分だけ利益を出す
- 一、すべてのことにおいて、損得で判断をせず善悪で判断する
- 一、ワタミらしいことをすべて肯定し、ワタミらしくないことをすべて否定する

※ワタミグループ憲章はワタミグループの経営判断基準を明文化したものです。

グループ社員としての行動基準

ワタミグループは日々の仕事の中で以下の基準を常に意識し、行動し、常にワタミらしくあるべし

- 1.常に謙虚なれ、常に感謝せよ
- 1.他人の喜びや悲しみを共有せよ
- 1.約束を守る、嘘をつかない
- 1.愚痴、陰口を言わない
- 1.笑顔で元気よく挨拶をする
- 1.出来ないと言わない
- 1.失敗を他人のせいにならない
- 1.大いに発言し、果敢に実行する
- 1.他人の意見を聞く
- 1.恥ずかしいと思うことはしない

グループ社員の仕事に対する心構え

ワタミグループは同じ目的のために同じ心を持つ同志の集合体であるべし

- 1.感激できる感性を持つべし 感激は情熱の源であり、情熱は成功への出発点である
- 1.逆境に悲観せず、順境に楽観せず、常にハングリー精神を持ち 挑戦し続けるべし
- 1.勝つまで戦え、限界からあと一歩進め 結果がすべてである
- 1.問題意識を持つべし 問題の発見と解決が次のビジネスチャンスを生む
- 1.継続こそ力なり 日々の努力は継続されることにより信用を生み、信用は力を生む

ワタミのCSRの考え方

ワタミのCSR

ワタミは、創業当時より、人としての人間性、企業としての企業性を重視し、あらゆるステークホルダーの皆様の満足を追求してきました。言葉は違えどもCSRを追求することとまったく重なります。

既存の慣習に捉われないこと、経済的・社会的・環境的ニーズの充足に挑戦し、革新された社会づくりに邁進しています。

今後も、グループスローガンに代表されるワタミの理念に基づき、よりよい社会、新しい社会のあり方を開発・提案・実践することで「CSR活動(地球上で一番たくさんのありがとうを集める活動=ワタミのふれあい活動)」を進めていきます。

地球環境を破壊することなく、安全・安心な社会のため、人として、企業としての使命(責任)を果たす持続可能な経営へ挑戦し続けます。
※現在に至るまでのCSRに関連する諸活動を「CSR年表」として掲載しています。(→詳しくはP60)

CSRの領域

ワタミは、一人ひとりがワタミグループのミッション・スローガンを共有し、新たな価値の創出、持続可能な社会の実現に向け、理念に基づき自発的な活動目標を設定し、その内容を深めることを必須と求めています。

一貫したCSR活動を維持・継続するため、ステークホルダーの皆様を、「お客さま」「株主様」「お取引業者様」「従業員」「地域・社会」「環境」に分け、そのさらなる追求に努めています。

- お客さまへの責任
 - 安全・安心で、付加価値の高い商品を提供
- 株主様への責任
 - 安定的な経営と適切な情報開示
- お取引業者様への責任
 - 公正で公平な取引、相互に補完・繁栄できる関係の構築
- 従業員への責任
 - 安全で適切な労働環境の構築、公正な評価
- 地域・社会への責任
 - 積極的な地域との交流と社会貢献
- 環境への責任
 - ワタミグループ全体で環境負荷を低減

ブランドテーマ

ワタミでは、環境、社会、そして人に対して、よりやさしい存在になることを目指し、「環境貢献・社会貢献・人間貢献」をブランドテーマとしても掲げ、取り組んでいます。

私たちの存在そして行動は、どの領域においても「社会に対してプラスとなる」という宣言です。

会社の存在そのものから、事業の選び方も、仕事の仕方も、人に良い影響を与える存在であり続け、テーマとして掲げたことを、常に忘れずに、少しずつでもやり続けるというグループ全体の意思表示です。

社会的責任を果たしていくために

ワタミが、社会的責任を果たし、「すべてのステークホルダーの皆様からのありがとう(感謝)」をいただくために皆様との対話を積極的に行い、私たちの活動に対する「声」を集めています。

皆様から寄せられたご提案・ご意見・クレームは、すぐに検討(対応)するとともに、課題解決への計画を策定、それぞれのマニュアルへの反映、業務計画への組み込みを行っています。

計画の実施、結果の評価、継続的な改善、確実なる目標達成に向けて、PDCA(計画→実行→評価→改善)サイクルを稼働させ、活動に取り組んでいます。

PDCAサイクル

ワタミでは、CSRへの取り組み状況を定量的・継続的に把握するためにPDCAサイクルを稼働させ、活動に取り組んでいます。財務面における指標だけでなく、各ステークホルダーの皆様の満足を目的として目標値を設定しています。

目標値(活動や指標)については、各ステークホルダーの扉ページに記載しています。(CSR指標はP61)



事業活動を通じて社会的課題の解決に貢献を

外食



一人でも多くのお客さまに、あらゆる出会いとふれあいの場と安らぎの空間を提供すること
おいしいものがあって、良いサービスがあって、良い雰囲気がある場所に、好きな人と一緒にいる……。こんな場面を提供したい、外食産業は人を幸せにする産業だと考え、「お店はお客さまのためだけにある」を店舗基本理念として、外食事業を展開しています。

介護



一人でも多くの高齢者の方に心からのお世話をさせていただくことにより、お一人おひとりの幸せに関わらせていただくこと
日本の高齢化は急速に進んでおり、2014年には総人口の25%が65歳以上という超高齢社会となります。「高齢者の方からも、たくさんのありがとうを集めること」を目的に、介護事業に参入しています。

農業



食の基本である安全・安心を追求し、次世代に良い環境を残し、人々の幸せに貢献する
食料自給率・海外穀物の急騰・海外の化成肥料原料急騰と原油の急騰に始まった混乱は収まる様子もありません。長年、海外に依存した食糧政策、そして化学肥料に頼った農業政策が破綻し、環境に負荷を与えない有機農業が認知され始めています。今こそ、環境に寄与する有機農業を全国の有機農業者と推進することで、国内の農業諸問題を少しでも改善しようと活動しています。

環境PM



さまざまな施設の「生む～創る～守る」を一貫して行い、施設の価値を最大限にするとともに地球環境へ貢献すること
ワタミグループでは、さらに環境への取り組みを強化するため、施設の開発を行ってきたワタミ(株)の店舗(施設)開発部門とワタミエコロジー(株)のメンテナンス・環境事業を統合、ワタミエコフォーカス株式会社を設立しました。

MD



バラエティ豊かで、常に変化し続けるメニューを支え、安全で、衛生的で、フレッシュな製品を、均質に、圧倒的な安価で提供し続けること
「食」を取り巻く環境の変化がますます加速するなかで、「食の安全・安心」を守り、「食を通じて人と人が出会う場を豊かにする」ことは、「食」に関わる企業として当然の責務であると考えます。生産から消費までの一連の流れの中で、お客さまから「ありがとう」を集める活動を強化するために、ワタミ手づくりマーチャндаイジング株式会社を設立しました。

事業を超えて「ありがとう」を集めにいきます。

社会貢献



カンボジアの学校
NPO「スクール・エイド・ジャパン」を支援



ワタミの森づくり
NPO「Return to Forest Life」を支援

より多くの人々の幸せへのきっかけの提供
「開発途上国の子どもたちに教育環境と教育機会の提供」や「環境改善の取り組みとして森づくりをすること」などをNPO法人などを通じて継続的に支援、全社員の社会的責任行動やボランティア活動への参加を促進しています。

コーポレートガバナンス

意思決定の迅速化とグループ価値最大化を目指して

ワタミでは、経営管理機能を強化し、スピーディな意思決定を図りつつ、各事業の経営資源やインフラのシナジー効果を高め、グループ価値最大化と事業ポートフォリオの最適化を目指しています。

2006年4月1日、経営管理と業務執行を分離した持株会社体制に移行、グループ各社が、全体の「統一性」を維持しつつ、ステークホルダーの皆様のニーズに応じて「独自性」を発揮できるように権限と責任を持ちました。

さらに、グループガバナンスの強化のため、内部統制システムの整備を進めるとともに、グループCSR活動を推進しています。

内部統制システム整備への取り組み

2006年5月に施行された「会社法」を踏まえ、「業務の有効性・効率性の確保」「財務報告の信頼性の確保」「法令等の順守」「資産の保全」といった目的を達成するために、グループ内の体制・業務を見直し、経営者自らが事業全体を監視する仕組みを組み込み、適正な事業活動を継続して行う基盤の整備を進めています。

ワタミでは、2006年5月には「取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制」などの内部統制システム構築に関する基本方針を取締役会で決議しました。

2008年度は、2007年度より取り組んでいる業務の適正を確保するための体制づくりをさらに推し進め、ワタミが安定的・持続的に成長していくためのリスク管理体制を構築していきます。

取締役のグループ公選制の採用

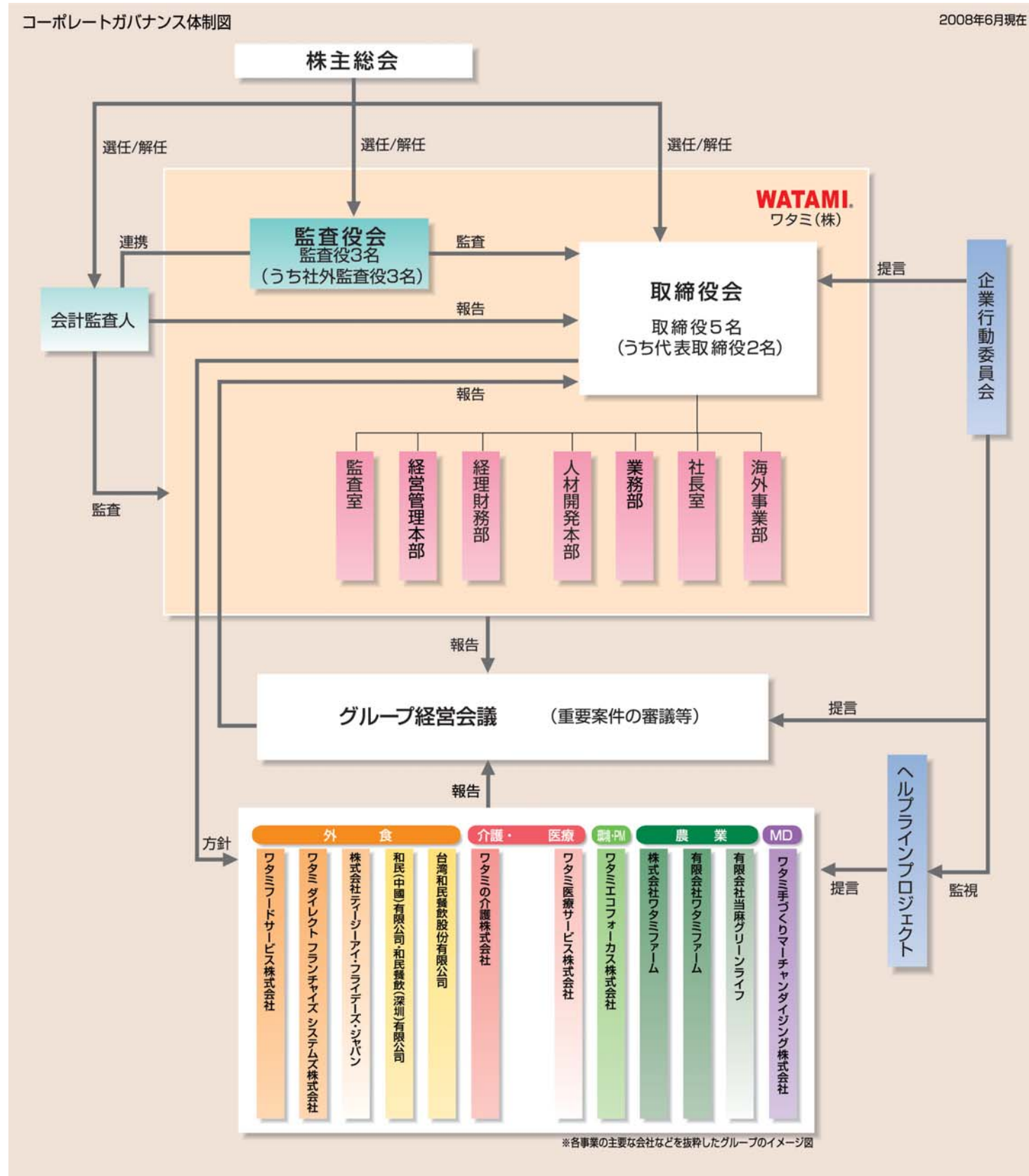
ワタミでは、2002年には、不測の事態に迅速に対処することや権限の一極集中を回避するため、代表取締役を2名体制に変更し、円滑な経営を図る体制を構築しました。

加えて「執行役員制度」を導入し、取締役会の監視機能と執行役員の業務執行を分離しました。

2006年度からは取締役の任期を、2年から1年に変更することで、経営に対する責任を明確にしました。

また、2002年から段階的に減らしてきた取締役数を、2006年度より5名とすることでさらなる迅速体制を整えました。

役員の選任は、2006年4月より「グループ公選制」を採用しています。取締役候補者の選任には、透明性を高めるため、公正な選任プロセスを構築しています。ワタミ(株)取締役、執行役員、各グループ会社社長、役付取締役による投票を行い、その結果をワタミ(株)の取締役会にて承認し、株主総会に諮り承認を得ています。



CSRの基盤として、グループのガバナンスに力を入れています。

グループ経営会議と役員会 (グループ全体の最適化と監督の仕組み)

毎月2回、ワタミ(株)の社長、取締役、各部門を統括する責任者、グループ各社の社長が参加する「グループ経営会議」を開催しています。この会議は、経営資源の管理・適正配分や、グループ全体の事業効率を高めること、潜在するリスクに対応し、事業活動の安定性・信頼性を確保することを目的としています。

会議では、グループ内の情報共有化とともに重要案件についての審議が行われ迅速な意思決定がなされています。

また、新規事業への参入などの重要課題に対しては、各社の事業推進・最適化に留まらず、グループとしての強みを活かした連携・展開を実現するための活発な議論がなされています。

このような経営会議を開催することで、取締役会での審議がより精度の高いものになっています。

さらに毎月一回、グループ各社の「役員会」にて、前月の営業概況や次月の計画、課題などの報告・討議が行われています。

この会議においては、ワタミ(株)の取締役および各部門責任者が参加することにより、各社運営の監督・支援を行っております。

CSR活動の推進体制構築

ワタミグループでは、グループ各社・各部署でそれぞれ設定した目標を達成するために、計画を立案し、その活動を推進しています。

目標として定めたCSR指標の進捗は、毎月開催されるグループ経営会議にて報告されます。グループ各社・各部署が各々のCSR指標を追求することでグループ全体でのCSR活動が推進されています。

企業行動委員会

グループ内の潜在・顕在するリスクについて検討し、早期に自発的に改善を促す事でグループのコンプライアンスを徹底することを目的とした、会社組織とは別の独立した専門機関です。

ワタミ(株)取締役会にて選任された取締役・部長・外部顧問により構成され、定期的な会議を開催し、各種案件を検討しています。下部組織としての「ヘルプラインプロジェクト」を監視し、必要に応じてグループ経営会議・各社取締役会への提言を行っています。

2008年度については、グループ全体のリスク管理体制の整備と併せてフローを明確にし、実効性を高めています。

コンプライアンス

企業倫理とコンプライアンスの徹底

ワタミでは、企業としての社会的責任を果たしていくうえで「理念の浸透」に加え、「企業倫理の確保」と「順法精神の醸成」を最も重要な活動の一つに位置づけて、社内への浸透に徹的に取り組んでいます。役員・社員の一人ひとりが法令の順守に留まらず、高い倫理観・使命感を持って実践に取り組めるよう、「理念集」(→詳しくはP38)を全社員に配布し、事業責任者が主催する教育・啓発活動を毎月実施しています。

また、執行部門から独立した監査室を置き、内部監査規程に基づき定期監査および臨時監査を行っています。

2007年度は、グループ全社員が定期的(3カ月)に参加する理念研修会(→詳しくはP38)にてコンプライアンスをテーマとして、研修を実施しました。

研修では、ふれあい報告書2007(CSR報告書)をテキストとして、想定されるコンプライアンス違反についての講義や質疑応答、ディスカッションを行いました。また新卒社員・中途社員の入社時研修においても同様にコンプライアンス意識を醸成する講義を実施しています。

適正飲酒の推進

適正飲酒の啓発活動は、社会的影響の大きい重要なテーマであると考えています。中でも、「未成年飲酒防止」については重点課題と位置づけ、社員教育・店内ポスター掲示などの社内体制の整備に加えて、未成年者と見えるお客さまには年齢確認をさせていただいています。

具体的な内容としては、全従業員に対して入社時研修およびロールプレイング研修や、全店舗にマニュアルを配布し徹底を図っています。特に、未成年の飲酒が増加しやすい時期(3月7月・12月)には全店舗を対象に指導を強化し、業務改革会議を通じて一層の徹底を促しています。

また、2007年9月～12月にかけて名古屋地区限定で、レンタルドライバーサービスの利用を促進し、飲酒運転撲滅することを目的に、「飲酒運転撲滅キャンペーン」をトヨタファイナンス株式会社、つばめタクシーグループ株式会社と共同で行いました。これは名古屋地区にあるワタミグループの店舗をご利用のお客さまが、トヨタファイナンス発行のTFCカードにて飲食代金を決済された場合、運転代行サービスを優待料金で利用できる特典を提供するサービスです。



「飲酒運転撲滅キャンペーン」
掲示ポスター



店内掲示ポスター

ワタミヘルプライン

2003年に、グループ内に存在する問題を広く受け付け、積極的に解決し、自己改善・自浄のできる組織になることを目指し、情報収集窓口(ワタミヘルプライン)を、グループ従業員(パート・アルバイトを含む)およびお取引業者様に向け開設しました。

このヘルプラインは、2006年4月から施行された公益通報者保護法にも準拠し、社内独立組織のヘルプラインプロジェクトに直接連絡する窓口と外部委託機関である(株)インテグレックス経由で連絡する窓口の2つを設けています。

社内外の2つの窓口を持つことで、企業活動に伴うリスクの早期発見・未然防止の体制を強化するとともに、制度の透明性・利便性の向上、通報者の保護の徹底に努めています。

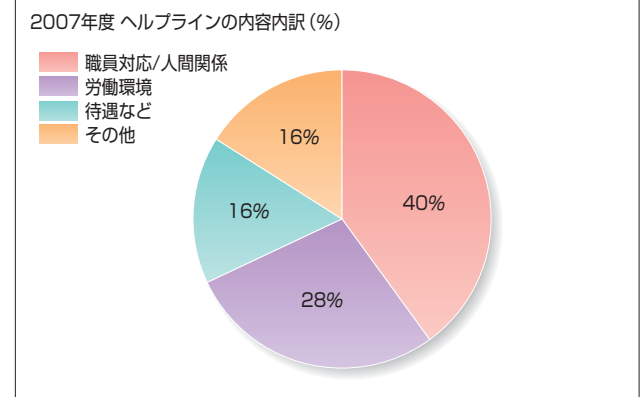
データ集：ワタミヘルプライン概要…P64

ヘルプライン受付アドレス ※Eメールアドレスは携帯電話からのメールでも可能です。

ワタミヘルプラインプロジェクト w-helpline@watami.net

(株)インテグレックス(外部委託会社) w-helpline@integrex.jp

インテグレックスホームページ <http://www.integrex.jp>



ノロウイルスによる食中毒事故発生のご報告

ワタミフードサービス株式会社が発行する居食屋「和民」上尾モンシェリー店で、ノロウイルスを原因とする食中毒事故が発生。当該店舗において3日間の営業停止の行政処分を受けました。2007年11月30日および12月1日の営業日にご来店いただいたお客さまのうち33名(5グループ)の方が体調不良を訴えられ、保健所の調査および病院での検査において一部のお客さまおよび、店舗従業員3名からノロウイルスの陽性反応が検出されました。事故発生の際より保健所の指導に基づき改善に努めました。

ワタミでは、以前より原材料の菌検査や外部検査機関による衛生検査を実施していましたが、再発防止と信頼回復のため、グループ全社をあげて以下の安全衛生強化対策に取り組みました。

- 従業員への教育を徹底し、作業段階での安全衛生を一層徹底する。
- 全食材について仕入物流段階における品質チェックを強化する。
- 全店、次亜塩素酸ナトリウムを用い、店舗内の清掃・消毒を強化する。

今回、発症されたお客さまに大変なご迷惑をお掛けしましたことを深くお詫び申し上げます。

また、関係者の皆様にもご心配ご迷惑をお掛けし、誠に申し訳ございませんでした。お客さまの安全・安心をお預かりするワタミグループといたしましては、今回の事実を厳粛に受け止め、今後の事業活動において二度とこのようなことがないよう努めます。

リスクマネジメント・情報セキュリティ

リスク発生時の対応体制を拡充

ワタミではリスクを、(1)経営リスク、(2)政治・経済・社会リスク、(3)災害・事故などによるリスクに分類し、それぞれのリスクの影響度・発生頻度を考慮し管理しています。

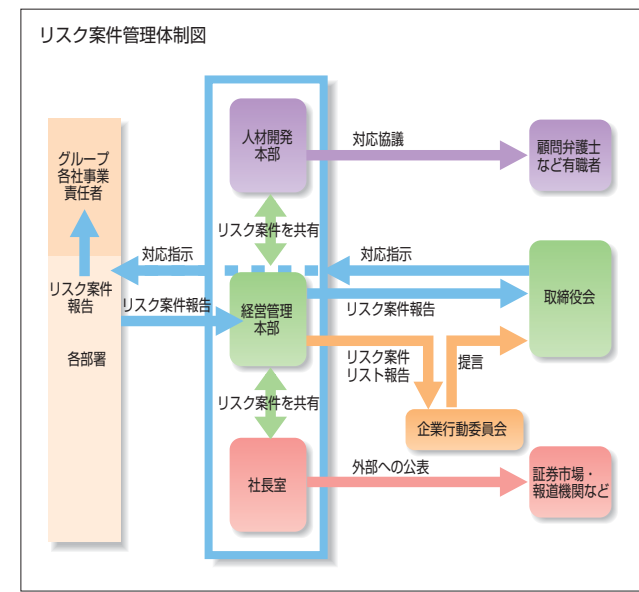
外食事業では、BSEや鳥インフルエンザなどの伝染病の蔓延による仕入価格の高騰や、集中仕込みセンターの稼働不能による供給体制の支障といったリスクがあります。また、グループ事業の拡大に伴い、農業での天候不順や介護事業での保険制度の法改正など、新たなリスクが発生しています。

これらのグループ全体としての重要リスク案件を把握・管理するために、法令違反や事故情報など重要リスク案件を集中して管理する体制を整備しています。

リスク案件がグループ各社にて発生した際は、関係各部署に連絡、対応依頼を行うとともに、必要に応じて保険代理店、顧問弁護士などと協議のうえで対応します。

また発生したリスク案件は、経営管理本部・人材開発本部(人事)・社長室(広報)にて全件共有しており、経営管理本部により各リスク案件のリストを作成・管理のうえで取締役会に報告します。

データ集：想定される主なリスク…P64

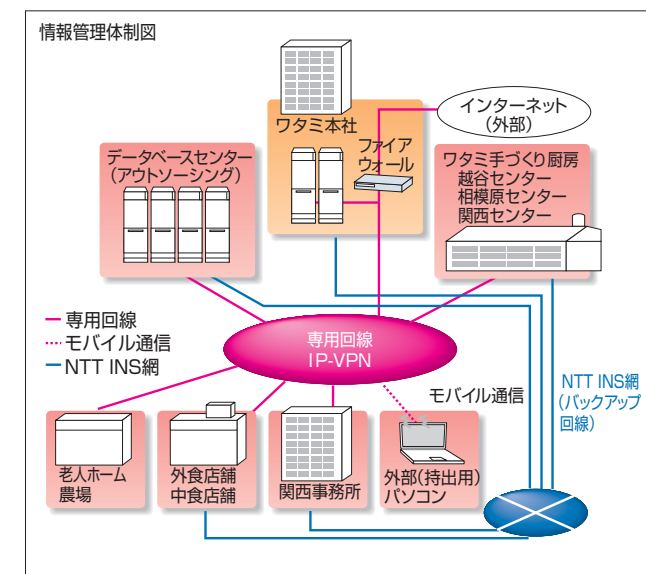


情報セキュリティの強化

事業活動を遂行するうえで不可欠な情報の保護・管理は、企業として当然の責任と認識し、その整備に積極的に取り組んでいます。

各施設(店舗・老人ホーム・農場など)は専用のグループ共通の通信ネットワークを整備することでアクセスを制御、外部への接続は、本社ファイアウォールを経由することでセキュリティを強化。災害の発生に備えデータベースセンターを地盤の強い立地に選定する他、通信ネットワークのトラブル発生時には、自動的にバックアップ回線に切り替わるシステムを導入、データ送信に支障の出ない体制を構築しています。

2007年は外部からのアクセス制限だけでなく、社内のパソコンの利用状況を監視することで、セキュリティレベルを高めました。



個人情報の安全管理体制

外食店舗では、全店に「個人情報保護方針」の掲示はもちろん、個人情報に関するお問い合わせに対する専用窓口を「お客様の個人情報のお取扱いについて」にてご案内しています。また、お客さまの名簿や従業員の個人情報については、施錠可能な場所に保管するルールが徹底されていることを、適宜確認しています。

ワタミふれあいホームページでは「お客さまの個人情報に関するプライバシーポリシー」を公開し、法令および当社が定めた内部規則を順守することを宣言しています。さらに、外食店舗の評価を送信するアンケートフォームにおいては、送信される情報はSSLにより暗号化しています。なお、2007年度に個人情報保護法に違反する事案はありませんでした。

外食店舗に掲示されている個人情報保護方針

ワタミ株式会社個人情報保護方針

- 基本方針
 - 当社はお客様、株主様及び取引先様からご提供いただいた個人情報(以下「個人情報」といいます)を、法令等に基づき適切に管理し、その漏えい・滅失・毀損を防止し、個人情報の権利を保護し、お客様の利益を保護することを旨として取り扱います。
 - お客様、株主様及び取引先様からご提供いただいた個人情報は、当社の業務遂行に必要と認められる範囲内においてのみ収集・利用いたします。収集・利用の目的は、お客様、株主様及び取引先様との関係の維持・発展に必要と認められる範囲内においてのみ行います。
 - お客様の個人情報は、当社の業務遂行に必要と認められる範囲内においてのみ収集・利用いたします。収集・利用の目的は、お客様、株主様及び取引先様との関係の維持・発展に必要と認められる範囲内においてのみ行います。
 - お客様の個人情報は、当社の業務遂行に必要と認められる範囲内においてのみ収集・利用いたします。収集・利用の目的は、お客様、株主様及び取引先様との関係の維持・発展に必要と認められる範囲内においてのみ行います。
- 個人情報の取扱いについて
 - 当社は、業務遂行に必要と認められる範囲内において、「個人情報保護方針」を定め、個人情報の収集・利用の目的・範囲・方法を明示し、お客様の同意を得た上で取り扱います。
 - お客様の個人情報は、当社の業務遂行に必要と認められる範囲内においてのみ収集・利用いたします。収集・利用の目的は、お客様、株主様及び取引先様との関係の維持・発展に必要と認められる範囲内においてのみ行います。
 - お客様の個人情報は、当社の業務遂行に必要と認められる範囲内においてのみ収集・利用いたします。収集・利用の目的は、お客様、株主様及び取引先様との関係の維持・発展に必要と認められる範囲内においてのみ行います。
 - お客様の個人情報は、当社の業務遂行に必要と認められる範囲内においてのみ収集・利用いたします。収集・利用の目的は、お客様、株主様及び取引先様との関係の維持・発展に必要と認められる範囲内においてのみ行います。
- 個人情報の安全管理について
 - 当社は、個人情報の安全管理に努め、個人情報の漏えい・滅失・毀損を防止し、お客様の利益を保護することを旨として取り扱います。
 - お客様の個人情報は、当社の業務遂行に必要と認められる範囲内においてのみ収集・利用いたします。収集・利用の目的は、お客様、株主様及び取引先様との関係の維持・発展に必要と認められる範囲内においてのみ行います。
 - お客様の個人情報は、当社の業務遂行に必要と認められる範囲内においてのみ収集・利用いたします。収集・利用の目的は、お客様、株主様及び取引先様との関係の維持・発展に必要と認められる範囲内においてのみ行います。
 - お客様の個人情報は、当社の業務遂行に必要と認められる範囲内においてのみ収集・利用いたします。収集・利用の目的は、お客様、株主様及び取引先様との関係の維持・発展に必要と認められる範囲内においてのみ行います。
- 個人情報の取扱いの透明性について
 - 当社は、個人情報の取扱いの透明性を確保し、お客様の利益を保護することを旨として取り扱います。
 - お客様の個人情報は、当社の業務遂行に必要と認められる範囲内においてのみ収集・利用いたします。収集・利用の目的は、お客様、株主様及び取引先様との関係の維持・発展に必要と認められる範囲内においてのみ行います。
 - お客様の個人情報は、当社の業務遂行に必要と認められる範囲内においてのみ収集・利用いたします。収集・利用の目的は、お客様、株主様及び取引先様との関係の維持・発展に必要と認められる範囲内においてのみ行います。
 - お客様の個人情報は、当社の業務遂行に必要と認められる範囲内においてのみ収集・利用いたします。収集・利用の目的は、お客様、株主様及び取引先様との関係の維持・発展に必要と認められる範囲内においてのみ行います。

お客様の個人情報のお取扱いについて

- お客様の情報を頂く際には、使用目的を明示し、その目的以外では使用いたしません。
- 個人情報について安全管理を心掛け、従業員への監督・教育に努めます。
- ご本人の同意なしに第三者に情報を提供いたしません。
- 6ヶ月以上保管する情報はご本人からのお求めによりその内容を明らかにし、ご要望があれば利用を停止いたします。
- ご意見・ご要望等ございましたら、所定の用紙(※)にご記入の上ご郵便にて下記のお問合せ先までご郵送下さい。

お問合せ先：ワタミ株式会社 庶務部
住所：東京都大田区羽田1-1-3
TEL：03-3747-2710

多様な人材の育成・活用を目指し、 非正規雇用者の教育制度を強化するとともに、 正社員への登用を推進しています。

2007年、非正規雇用者の比率は、非正規雇用者数(1,732万人)が正規雇用者数(3,441万人)の50%を超えています。また、若年層の非正規雇用者は、1997年から2007年までの非正規雇用比率が、15~34歳で、10年間で20.7%から31.8%と11.1%増加しています。(正規雇用者および非正規雇用者数は総務省 労働力調査より)
近年、この若年層雇用が社会的課題のひとつと言われており、若年層の雇用者に、企業は労働に従事させるだけでなく、職業能力の開発・向上のための教育訓練の機会提供が期待されていると考えています。

ワタミでは、アルバイトをする中で、時給だけでなくプラスアルファとなる大切なことを学んでいただきたいと思います。たとえば、人を思いやる心、時間を守ることや仲間を持つことの大切さ、元気に挨拶すること。さらに、農業や環境などの知識を学ぶことで、働いている方々の視野を広げていくきっかけとなればと考えています。この考えに基づき、アルバイトの方々にも様々な教育制度や評価制度を導入しています。



アルバイトの教育研修の推進

WFSは、2006年度からアルバイトの教育研修を専門に行う部署を新設し、首都圏および静岡県の284店舗を対象に、初期トレーニングを一人あたり9時間行う研修を開始しました。研修では、認定を受けた専属のトレーナーが、理念をはじめ、仕事内容や商品知識などの講義とロールプレイングによる実技を行います。

2007年度からは、アルバイトの定着率が向上した結果を受けて、さらに対象店舗を拡大し、東海・関西・北海道のエリアでも1,717名のアルバイトに対して研修を実施しました。

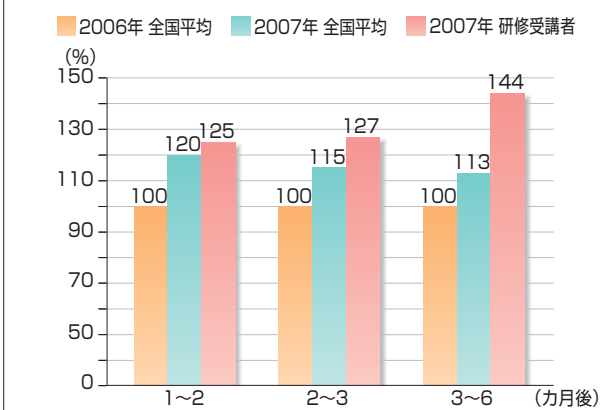
2008年度は、さらに九州へと実施エリアを拡大する計画です。

研修概要

研修A (2時間)	理念、仕事内容や商品知識の習得
研修B (2時間)	オーダーを受注する機器の習得
研修C (2時間)	ロールプレイングによる仕事の一連の流れを習得
研修D (3時間)	現場における指導・訓練

※研修は、2週間ごとに更新されるスケジュールをもとに、希望する会場や研修内容を選択し参加します。

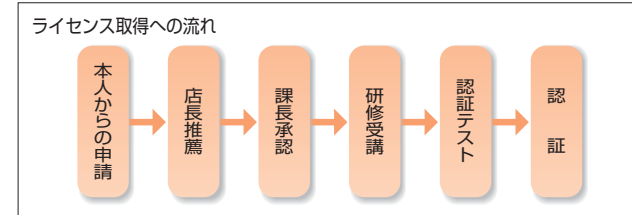
WFS アルバイトの定着率の比較(2006年の定着率を100%とした場合の比較)



※「1~2カ月後」は勤務開始から1カ月以上2カ月未満のアルバイト
「2~3カ月後」は勤務開始から2カ月以上3カ月未満のアルバイト
「3~6カ月後」は勤務開始から3カ月以上6カ月未満のアルバイト
※定着率とは、1カ月間の雇用者数を基準として、一定期間を経た在籍者数の割合
$$\text{定着率}(\%) = \frac{\text{一定期間を経た在籍者}}{\text{一定期間を経た在籍者} + \text{一定期間内の退職者}} \times 100$$

アルバイト向け社内ライセンス制度

WDFSでは、2005年度より、業務習得レベルの高いアルバイトを対象とした認証制度を設けています。制度は、トレーナー(新人教育担当)として必要な教育手法や、店舗責任者として必要な業務知識、店舗の状況に合わせて作業割当の変更を行う運営手法などの研修を受けたアルバイトが、認証テストを受け資格を取得するものです。2007年度は、トレーナー33名・時間帯責任者106名が認定されました。



TOPICS アルバイトの給与前払い制度の導入

この制度は、既に勤務実績のある給与の一部を、利用者が必要に応じて必要な額を、正規の給与支払日に先んじて受け取ることでできる制度です。2007年度は、首都圏を中心に154店舗に導入しました。

TOPICS アルバイトの多様な働き方を支援

ワタミグループでは、アルバイトの「短期勤務」や「深夜限定勤務」といった多様な働き方を支援する仕組みがあります。この仕組みは、ワタミ(株)人材開発本部がグループ各社・各店舗の日ごと時間帯ごとの求人状況を把握、グループ各社と雇用契約をしているアルバイトからの問い合わせに応じて、希望の条件の店舗を紹介しています。

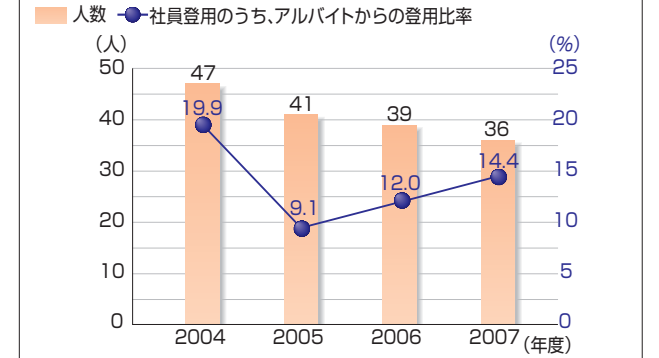
アルバイトからの社員登用制度の充実

ワタミでは、アルバイトから正社員になる「きっかけづくり」を推進しています。正社員を希望する方には、ワタミ(株)人材開発本部の採用担当者がグループの事業活動などを説明しています。

また、各社の社長と面談をする機会を設け、相互理解を深められるように努めています。

2007年度より外食事業において原則転動がないエリア社員制度を導入、2007年度実績で、アルバイトから正社員へ36名、エリア社員から正社員へ2名、アルバイトからエリア社員へ8名登用しました。ワタミの介護ではパートタイマーから正社員へ126名を登用しました。

アルバイトからの社員登用人数の推移(対象はWFS、WDFS)



INTERVIEW 「坐・和民」新宿野村ビル店 店長 佐野圭奈



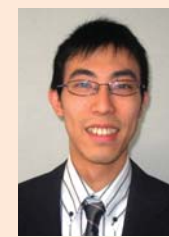
研修受講者を店舗で受け入れている店長から一言
ワタミで勤務する上で一番大切なことは、作業の習得が早いことでも、業務遂行のスピードが早いことでもありません。「お客さまに感動を与えるお店をつくらう」というワタミの思いを理解した上で、お客さまに接客させていただくことです。このことをしっかりと研修を通じて理解していることは、勤務する本人が今後、能力を向上させていく上でも、来店していただくお客さまによりレベルの高いサービスをさせていただく上でも重要で、大きな効果を発揮できる基礎と感じています。

INTERVIEW 教育研修課 トレーナー 西田早希



研修を実施しているトレーナーから一言
研修で一番意識していることは、研修を受ける本人が「やりがい」や「評価されること」など、働くことの楽しさや喜びを実感できるようになることです。ワタミでは、「明るくのびのびと仕事をしよう」という店舗運営基準がありますが、まさにこの運営基準を肌で感じてもらうことです。お客さまや仲間の従業員から「ありがとう」をもらい、働く楽しさを体験された方は、非常に意欲的になり、業務内容や商品知識の習得がとてもスムーズになります。私が、とてもうれしい時のひとつです。

INTERVIEW WFS 和み亭営業部 2課 課長 神山篤



アルバイトから社員となった経験者からの一言
アルバイトを始め一番驚いたことは、社員がお客さまに喜んでいただくことに真剣に取り組んでいる姿でした。仲間と一緒に、本気になって「お店づくり」に取り組むことが、自分自身を成長させるためにも必要だということ学びました。これからも、一つひとつの「ありがとう」をいただくことに一生懸命取り組んでいきたいと思っています。